

次期総合交通戦略策定に向けた 検討について

目次

- 1 全体スケジュールについて
- 2 次期総合交通戦略の策定に向けた検討の進め方について
- 3 上位関連計画等を踏まえた将来都市像（素案）について

1. 全体スケジュールについて

1 全体スケジュールについて

令和7年度

- 松本市パーソントリップ調査の実施、調査結果の整理（マスターデータ整備）
- ABS（アクティビティ・ベースド・シミュレーション）の準備
- プローブデータ等の既存データの収集、整理

今年度



令和8年度

- 次期総合交通戦略の検討、策定
（交通政策検討委員会：4回程度開催を予定）

■ 令和8年度のスケジュール（案） 現時点の想定

	令和8年度												令和9年度
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総合交通戦略策定	現戦略の検証												
	データ分析・将来予測				データ現況・将来予測								
				目標・施策検討				次期戦略（案）作成		パブコメ	修正		印刷製本
交通政策検討委員会				●			●		●			●	
									（パブコメ案）			（策定）	

2 次期総合交通戦略の策定に向けた 検討の進め方について

(1) 総合交通戦略(現行計画)について

現行計画について

- 平成27年度に策定。
- 目標年次・計画期間を令和7年度までの10年間に設定。
- 概ね中間年に当たる令和3年度に現計画へ改訂(主に施策の見直し)。



■ 目次構成

第1 計画の概要

第2 松本市の現状と今後の見通し

- 1 関連計画など
- 2 都市の現状と今後の見通し
- 3 交通の現状と今後の見通し
- 4 松本市の課題

第3 総合交通戦略の目指す将来像

- 1 新しい目標の設定
- 2 将来の暮らしのイメージ(将来像)

第4 交通政策の方向性と施策展開

- 1 交通政策の方向性
- 2 目標を実現するための施策・事業

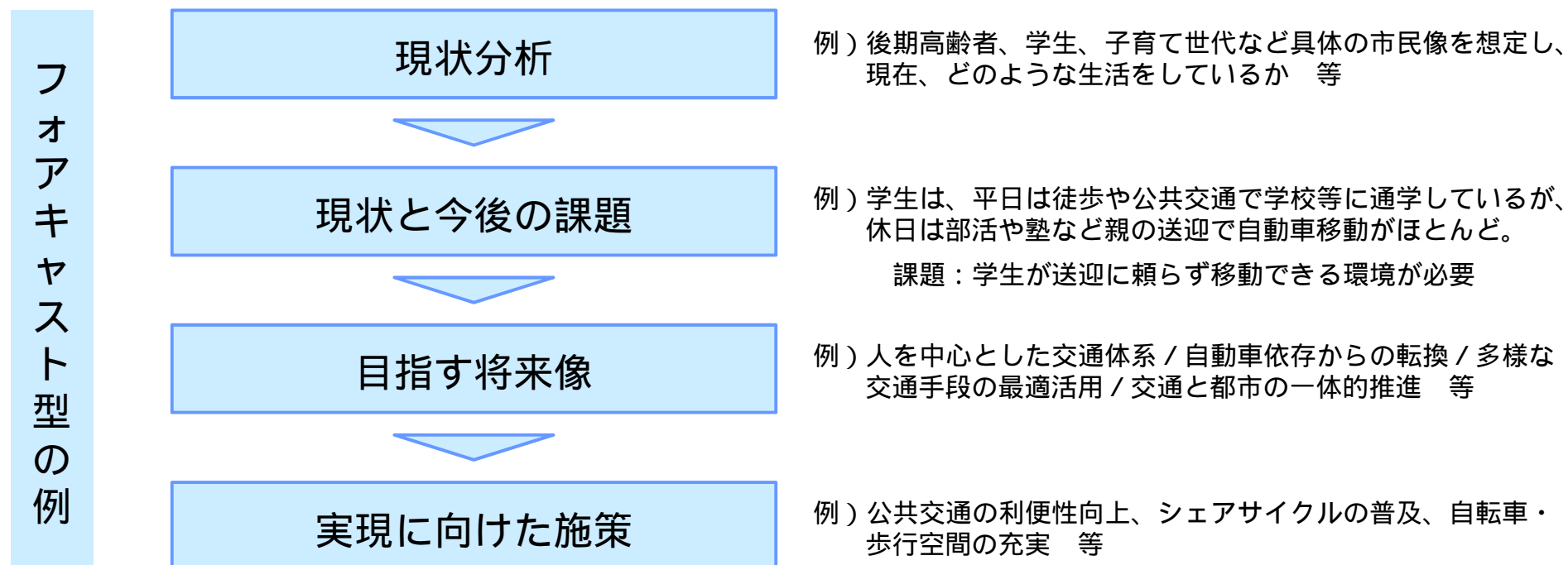
第5 総合交通戦略の推進に向けて

- 1 進行管理の考え方
- 2 成果指標
- 3 推進体制

(1) 総合交通戦略(現行計画)について

現行計画の流れ

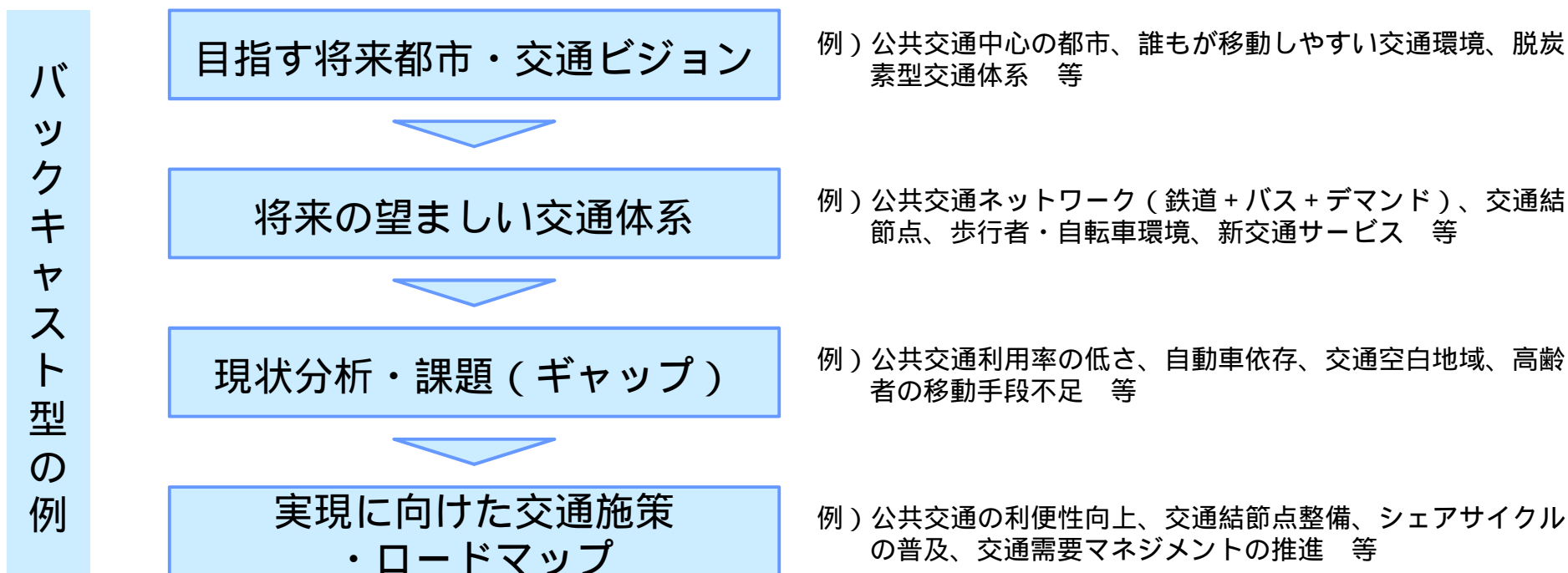
- 現行計画は、現状分析から課題を整理し、課題を踏まえた目指す将来像を設定した上で、その実現に向けた施策を検討する「**フォアキャスト型(現状延長型/予測型アプローチ)**」の考え方にに基づき策定。
- 前回委員会時も「ペルソナ分析(具体の市民像)を通じて松本市の10年後の将来像を描き、そこに向けて必要な戦略や施策を検討する」としていた。



(2) 次期総合交通戦略の考え方について

バックキャスト型（目標指向型・逆算型）の検討

- フォアキャスト型の検討の場合、現状やトレンドを最初に踏まえるため、現実的な計画、施策であるものの**現状の延長になりやすい**。
- 人口減少、後期高齢者の急速な増加、中心市街地の動向、公共交通の運転手不足など、近年の市を取り巻く**様々な社会動向の変化**を踏まえると、次期総合交通戦略では、将来の望ましい都市や交通の姿を設定し、そこから必要な交通体系や施策を逆算して検討する「**バックキャスト型（目標指向型・逆算型）**」の考え方を取り入れて検討を進めてはどうか。



(2) 次期総合交通戦略の考え方について

フォアキャスト型とバックキャスト型の比較

- 分かりやすい一例として「**目標や課題の設定**」の違いが挙げられる。

	フォアキャスト型（現行計画）	バックキャスト型
目標の作り方	目標 = 現状 + α	目標 = 理想 - 現状
目標の出発点	現状	理想
目標値の性格	現実的・実現性を重視	意欲的・目指す姿を重視
KPIの例	公共交通分担率 現状：5 % 目標：6 %	公共交通中心都市を目指す 理想の将来像の公共交通分担率の水準は15 % 現状は5 %、5年後は8 %、10年後は10 %を目標 そのために必要な施策は・・・
課題の設定方法	現状や今後の見通しから設定	理想との差（ギャップ）から設定

(3) 目次構成(案)

現行計画

■ 目次構成

第1 計画の概要

第2 松本市の現状と今後の見通し

- 1 関連計画など
- 2 都市の現状と今後の見通し
- 3 交通の現状と今後の見通し
- 4 松本市の課題

第3 総合交通戦略の目指す将来像

- 1 新しい目標の設定
- 2 将来の暮らしのイメージ(将来像)

第4 交通政策の方向性と施策展開

- 1 交通政策の方向性
- 2 目標を実現するための施策・事業

第5 総合交通戦略の推進に向けて

- 1 進行管理の考え方
- 2 成果指標
- 3 推進体制

次期計画(案) 例

■ 目次構成(案)

第1 計画の概要

- ・策定の目的、主旨、位置づけ
- ・バックキャスト型アプローチの考え方 など

第2 将来都市像と交通の役割

- ・目指す将来像
- ・交通の役割
- ・役割を実現するための交通の姿、目標値

第3 現状と課題

- ・現状分析
- ・目指す姿と現状の比較(ギャップ)
- ・課題

第4 戦略と施策

- ・シナリオ
- ・取組みの戦略(パッケージ)
- ・具体の施策
- ・KPI

第5 推進体制、進捗管理

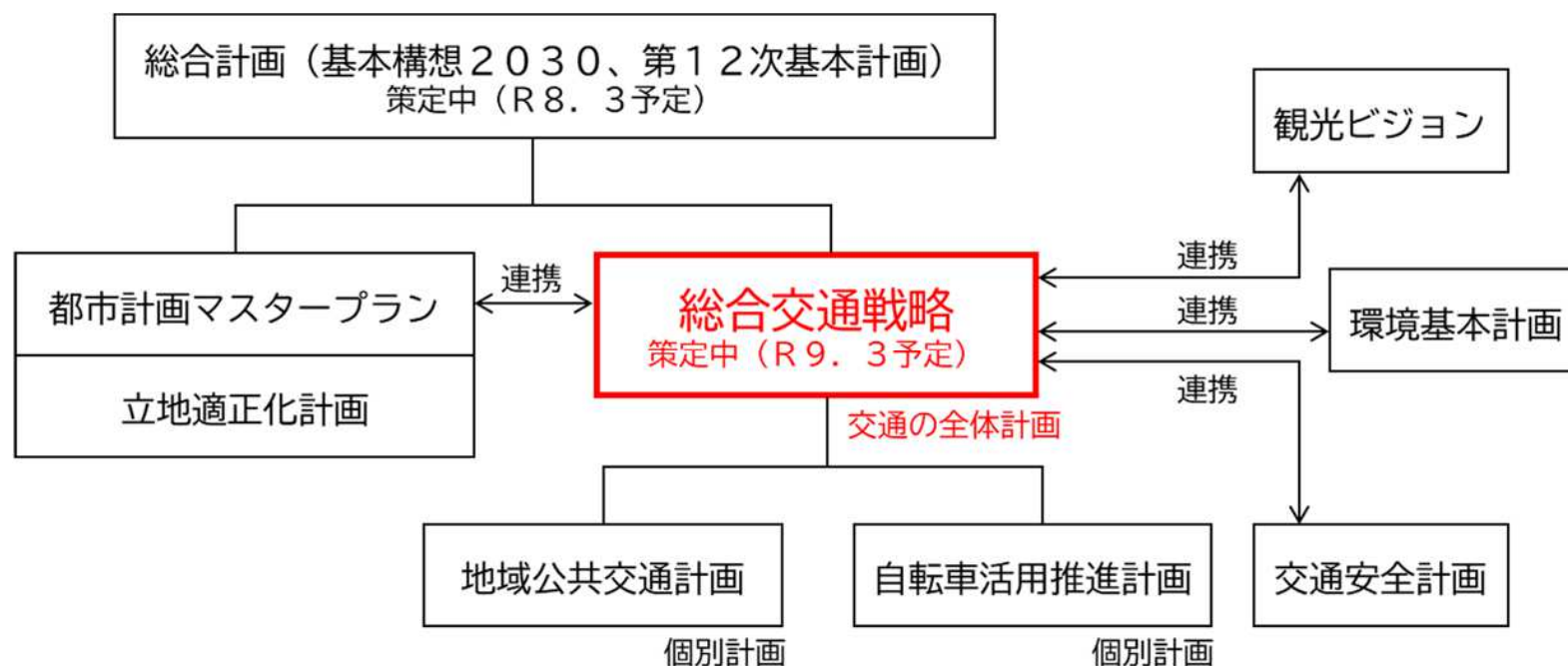
- ・推進体制
- ・モニタリングと見直し

3 上位関連計画等を踏まえた 将来都市像(素案)について

(1) 上位関連計画等について

総合交通戦略の位置づけ

- 松本市における**交通に関する全体計画**として位置づけ



■ 上位計画

総合計画（第12次基本計画） R7年度末策定予定

■ 関連計画

松本市都市計画マスタープラン R4.3策定

松本市中心市街地再設計検討会議からの提言 R7.3

（「えきしろ空間活性協議会」「駅まち空間デザイン検討会議」）

(2) 上位関連計画等における将来像について

総合計画（第12次基本計画） 案

■ 目指すまちの姿

- ・ 松本の地域特性を最大限生かした循環型社会
- ・ 一人ひとりが豊かさと幸せを実感できるまち

■ 基本施策と目標 交通関連

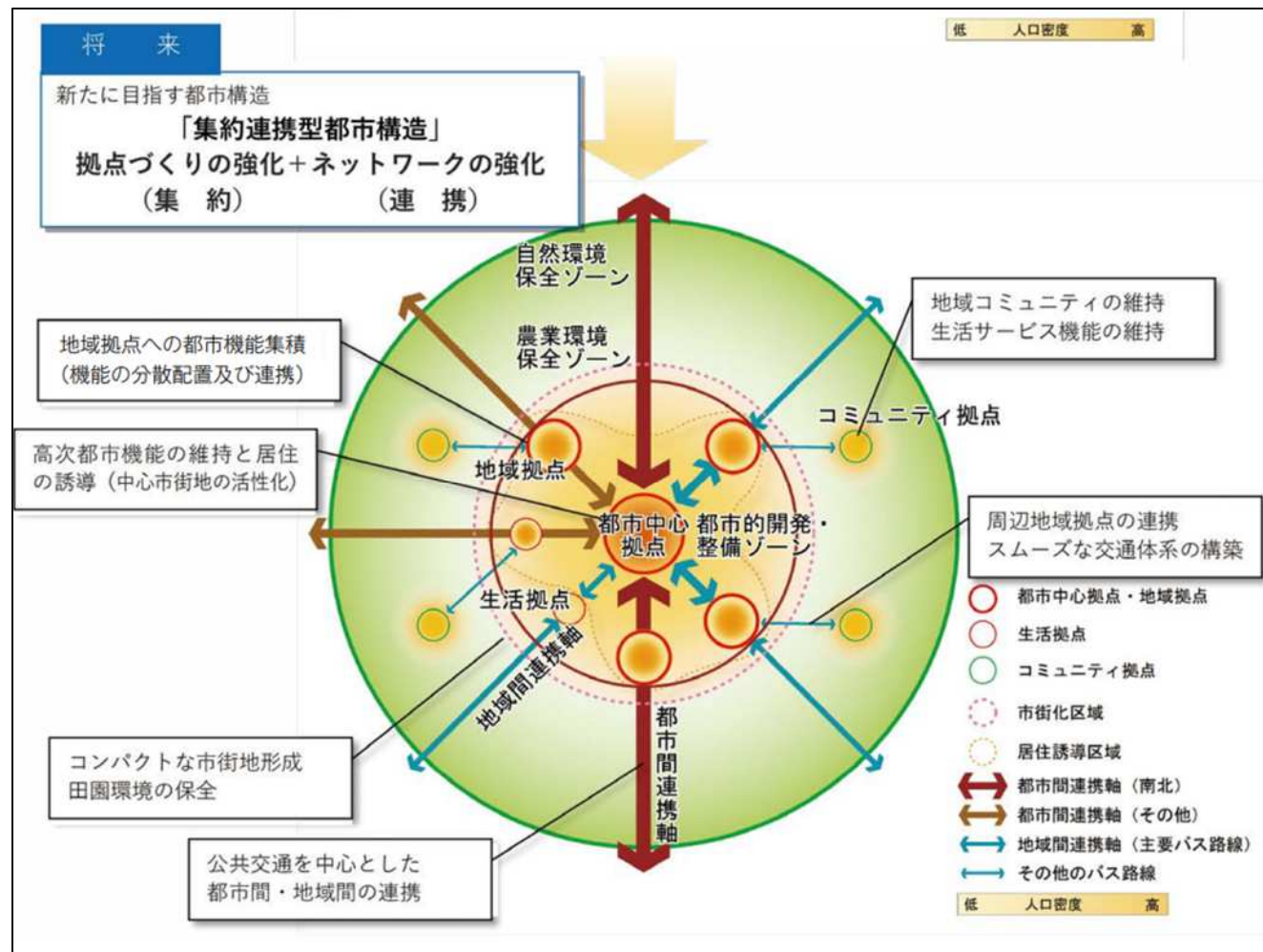
基本施策	目標（目指す姿）	キーワード
5-2 中心市街地の再活性	快適なパブリックスペースと交通利便性を備え、 多くの人が様々な目的を持って集う 、中心市街地の活性化を目指します。	・ ウォーカブルなまちづくり ・ 徒歩・自転車・公共交通による移動の促進 ・ 公共交通の利便性向上 ・ シームレスな交通体系
5-3 地域交通ネットワークの拡充	地域交通ネットワークの維持・拡充のために、行政、民間事業者、市民が連携を図り、 移動手段に困ることのないまち を目指します。	・ 地域特性に応じた最適な交通サービスの構築 ・ エビデンスに基づく地域交通の最適化 ・ 自家用自動車依存からの転換
5-4 自転車活用先進都市の実現	自転車利用環境の整備を促進し、 自転車を気軽に快適に利用できるまち を目指します。	・ 車以外の移動手段への転換 ・ 安全で快適な自転車通行空間のネットワーク化や駐輪環境の整備 ・ ゼロカーボンシティの実現
5-5 交通需要に即した道路整備	社会情勢の変化や事業の実現性を踏まえ、需要に即した道路整備を推進し、 安全・安心かつ利便性の高い快適な住みよいまち を目指します。	・ 自動車の総量抑制が長期的な課題 ・ 交通渋滞の対策
5-6 広域交通網の整備推進	道路・空港・鉄道の着実な整備と機能強化を推進し、広域交通網を活かした観光促進、交流人口の増加等の 地域経済の発展 を目指します。	・ 広域道路ネットワークの整備促進 ・ 鉄道各線の改良と利便性向上の推進

(2) 上位関連計画等における将来像について

松本市都市計画マスタープラン

■ 将来都市像

- ・ ゆとりと活気にあふれる、**自然共生都市**
- ・ 「住む人」と「訪れる人」にとって**魅力と活力にあふれる都市**



(2) 上位関連計画等における将来像について

松本市中心市街地再設計検討会議からの提言

■ 中核エリアの再設計で目指すもの

- ・ 「**パブリックライフ**」の充実、“まち”を使って一人ひとりの生活や人生が豊かになること。

8-1 パブリックスペースと“パブリックライフ”

パブリックスペース

街路、小路、広場、公園、井戸・湧水、河川敷など、誰もが自由に過ごせる公共的な環境や空間

パブリックライフ

学校の行き帰りや放課後のお喋り、バルコニーでのコーヒータイムやご近所さんとの立ち話、広場でのアートイベントやカフェでの観光客との交流など、主にパブリックスペースを舞台に起き得るあらゆる活動のこと。私たちが外に出て目にすることができるすべての出来事



(2) 上位関連計画等における将来像について

松本市中心市街地再設計検討会議からの提言

■ 5つの指針

10 「5つの指針」について

① “城下町松本”の歴史と自然を活かしたウォーカブルな空間を創出

- 城下町はもともと人が歩くことを前提に設計された都市であることを再認識し、車の総量を抑制
- 歴史と文化、豊富な湧水と河川、アルプスを望む眺望、公園と施設・店舗などが1つに繋がった、歩きたくなる空間を創出
- 松本駅を都市軸の起点に、歩行者優先でまちを結び直すことで、新たな人の流れと活動を生み出し、まちなかの生産性を向上

② “まちを舞台”にした魅力的なパブリックスペースをデザイン

- まちに暮らす人、通う人、商売をする人、訪れる人、あらゆる人にとって居心地が良く、出かけたい環境整備
- 若者や学生、アーティストなどが、まちなかにおいて自由に活動、表現し、チャレンジができる環境整備
- 多様な主体が行う取組みを、豊かな日常の暮らしのシーンとすることで、住んでいる人の生活の質を向上

③ “安心・自由”に移動できるモビリティネットワークを実現

- 環境負荷を軽減し、モビリティの選択肢が増えるよう、徒歩や自転車のアクティブ交通と公共交通を長期的な視点で改良
- まちの活動を支える社会基盤として、誰もが安心して「自由に移動できる」「動き回ることができる」環境を実現
- 松本駅と駅前広場を核に、交通の量と密度、スピードをリデザインすることで、まちなかの経済活動や社会生活を充実

④ “多様で高次な”都市施設を包摂する市街地を創造

- 商都としての魅力をアップデートし続け、多彩なサービスを提供するとともに、まちに出る楽しみ、ハレの場としての機能を充実
- 住む、働く、学ぶ、集う、憩う、育てる、楽しむなど、多様で高次な都市施設を包摂する土地・空間利用をリデザイン
- 多くの建物が更新時期を迎えている松本駅東地区に、周辺の城下町の歴史や景観などの松本らしさを守りつつ、市民益に繋がる民間投資を誘導

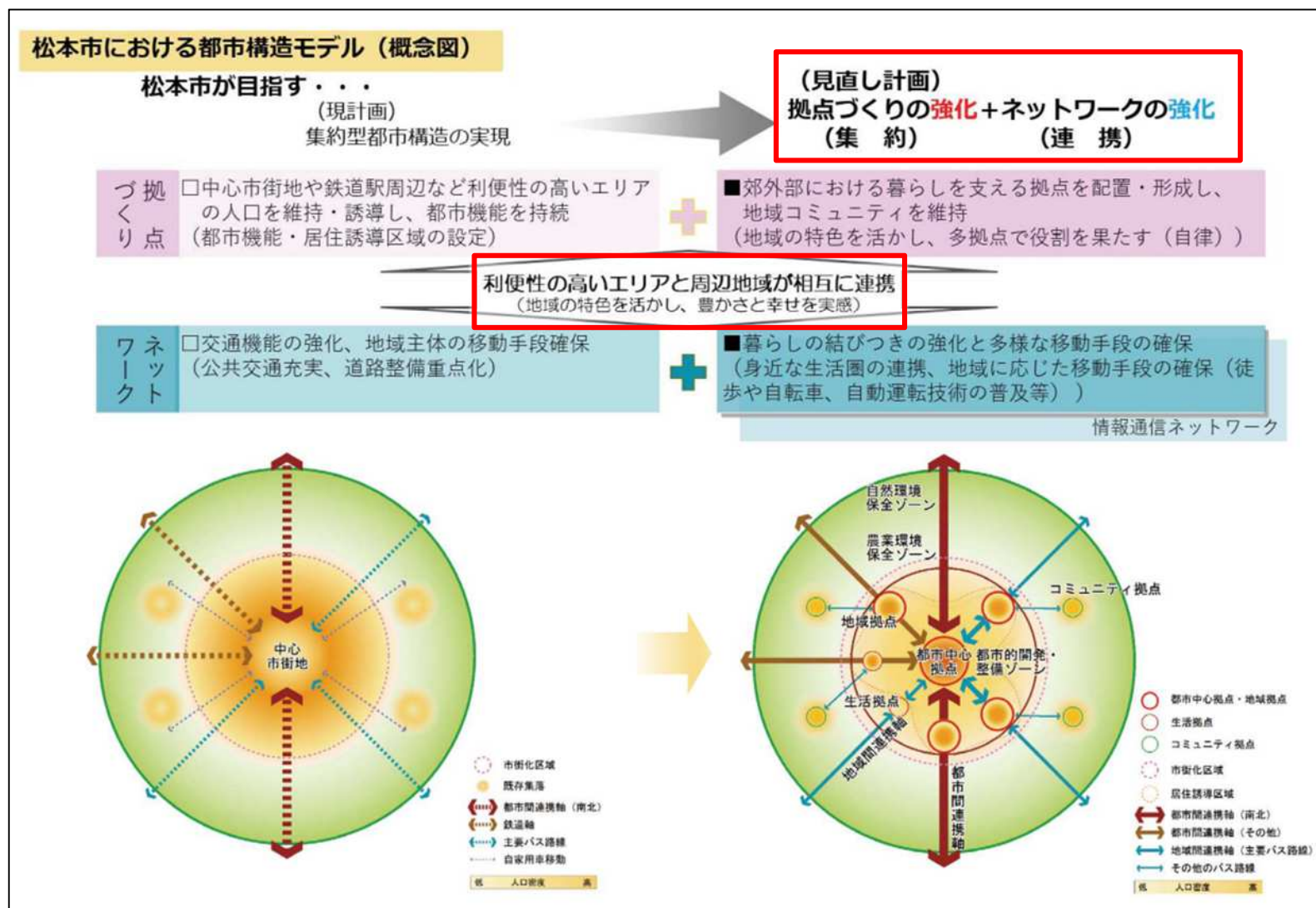
⑤ “公民学連携”によるまちづくりを推進

- 中・高校生や大学生、若者を始め、まちづくりにかかわる多様な主体が、まちづくりに参画し続ける環境整備
- ①～④の指針に沿ったまちづくりを進めるために、公民学が継続的・多面的に連携できる仕組みを構築
- 公民学の連携を通じて、公益性と事業性の両方を実現するまちづくりを進めることで、まちなかに多様なパブリックライフを共創

(3) 現行計画の将来像について

将来の暮らしのイメージ(市全体)

- 集約と連携(利便性の高いエリアと周辺地域が相互に連携)

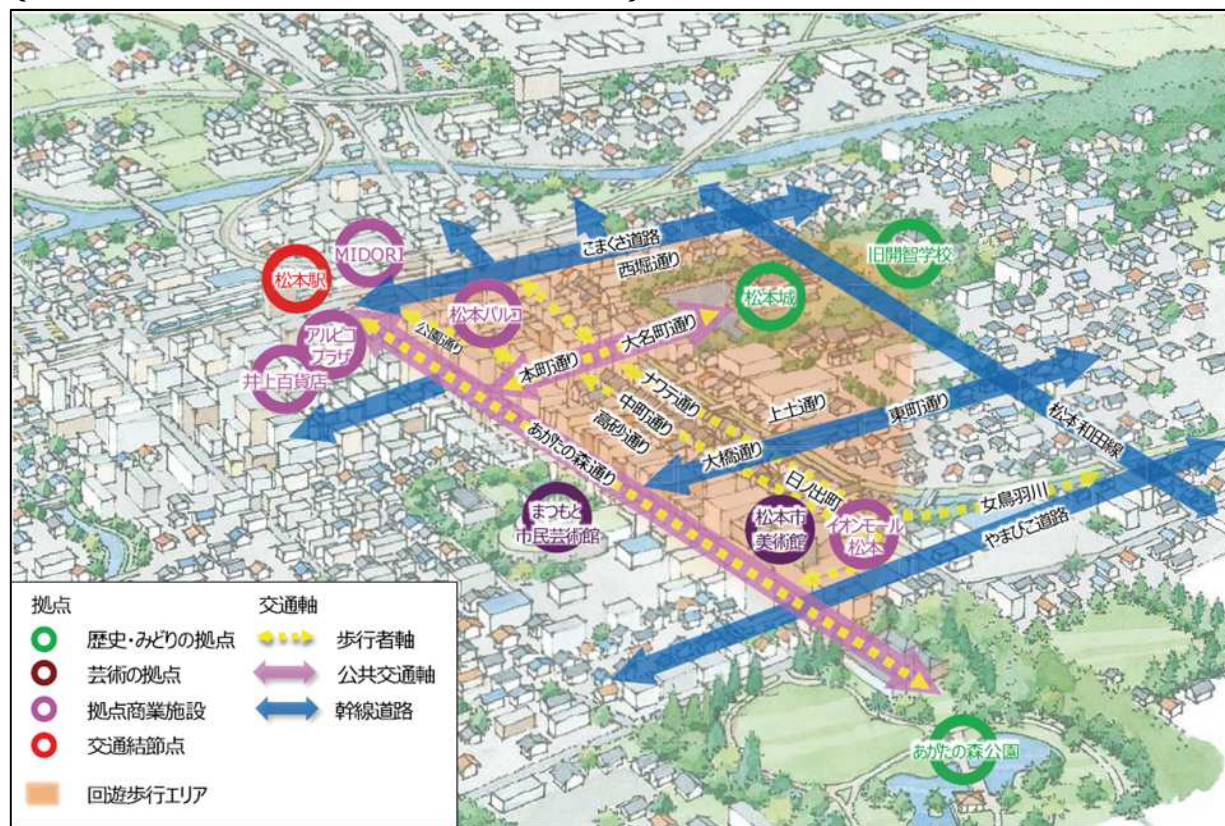


(3) 現行計画の将来像について

将来の暮らしのイメージ(中心市街地)

- 中心市街地では、居住する人や荷捌きなどを除く **自動車の通過交通が抑制**されるとともに、**徒歩や自転車、公共交通**による安全で快適な移動環境となる。

(中心市街地の将来イメージ)



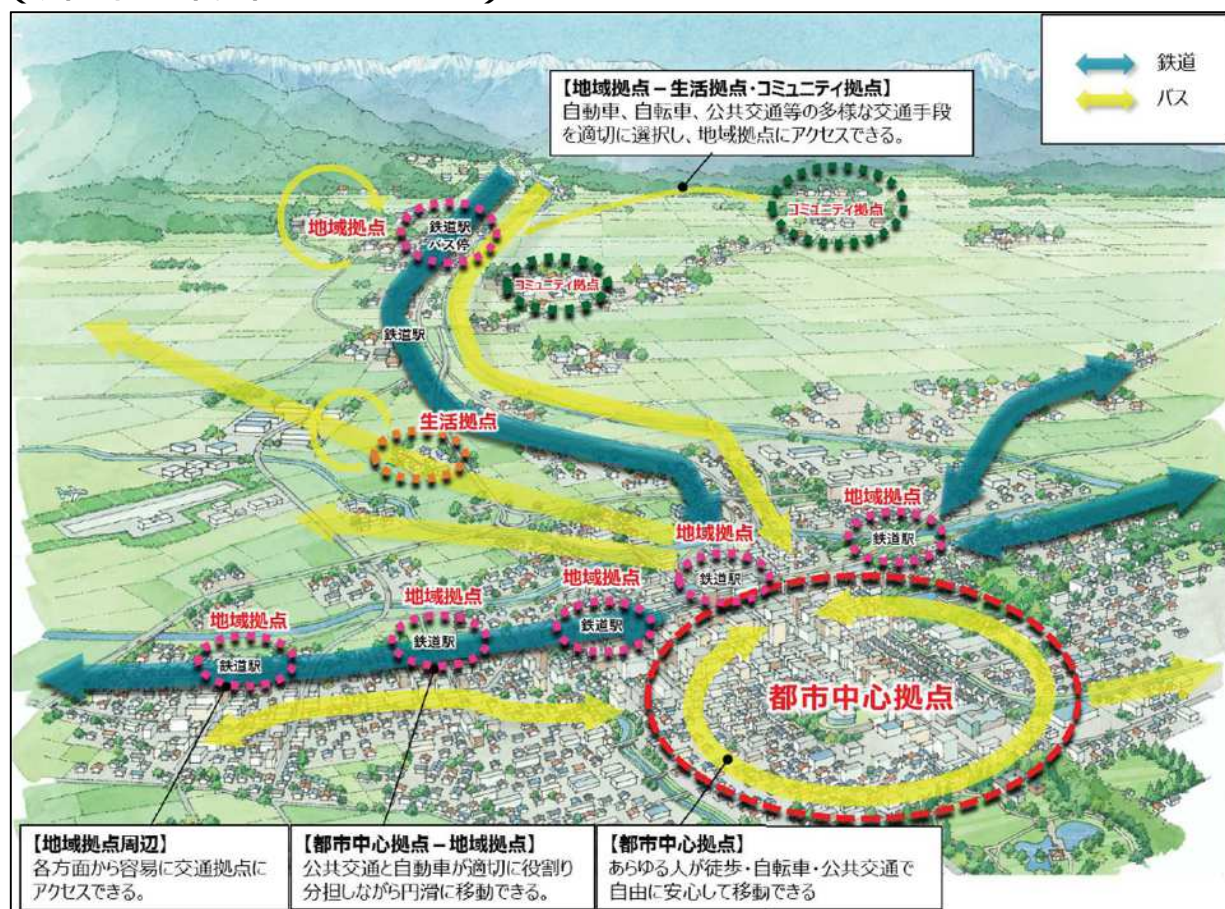
- 暮らしのあらゆる目的に応じて、多様な人たちが**集まり、行き交い、賑わう場**
- 松本都市圏の中心にふさわしい様々な都市機能が集積・ネットワーク化され、自動車の通過交通が減り、**歩行者、自転車、公共交通が中心**となった交通形態
- 誰もが自由で、かつ互いに配慮しながら移動できる環境
- 松本城やアルプスの眺めをはじめとした松本固有の歴史・文化・芸術・風景に触れられる場
- 松本の中心市街地ならではの豊かな環境を肌で感じ、楽しみ、誇りを持つ住民が暮らす場

(3) 現行計画の将来像について

将来の暮らしのイメージ(郊外)

- 郊外の公共交通が不便なエリア(鉄道駅や主要なバス停まで徒歩で行きづらいエリア)では、公共交通が社会基盤として生活を支え、地域ごとの特性に応じた**交通手段の適切な役割分担**とそれらを**シームレスにつなぐサービスの提供**により、各生活拠点へのアクセスを確保する。

(郊外の将来イメージ)



- 緑豊かでゆとりのある住環境と、地域で支え合う暮らし
- 普段の用事は身近な場所を、週末の買物は中心市街地を利用するなど、**目的に応じて利用する場所や交通手段を選択**
- 自家用車以外の移動手段が不便な場所では**公共交通が生活を支え**、生活拠点へのアクセスのため、交通手段を適切に選択
- 自然を楽しむ趣味などの活動を通じて人付き合いの輪が広がる環境

(3) 将来都市像(素案)について

将来都市像の要素(条件) **素案**

- 現行計画や上位関連計画、昨今の市を取り巻く環境などを踏まえると、将来都市像(暮らしや交通の姿)として以下のような要素(条件)が考えられるのではないかな。

■ 将来都市像の要素 **素案**

まちの姿	・ 中信エリアの中心、エリアの玄関口として魅力あるまち ・ 自動車に頼らなくても豊かに生活できるまち ・ 多様なライフスタイルを支えるまち ・ 中心市街地で居心地のよい公共空間が広がり、パブリックライフが充実しているまち ・ 郊外の暮らしやすい生活圏が形成されているまち ・ セロカーボンを目指すまち
くらしの姿	・ 若い世代や子育て世帯が住み続けたい魅力ある環境 ・ 高齢者が安全、安心に暮らし続けられる環境 ・ 山と文化に囲まれ、歩いて楽しむことのできる環境 ・ 三ガク都を実感できる充実したくらしのできる環境
交通・移動の姿	・ 自家用車を使わなくても、誰もが必要な移動ができる環境 ・ 様々な移動手段を選択できる環境 ・ 医療、買物、公共サービスなど生活に必要な日常移動ができる環境 ・ 健康長寿につながる外出・移動環境 ・ 来訪者がストレスなくまちを楽しめる移動環境

上記の素案に対して、より重視すべき視点やキーワード、不足している・加えるべき・考慮すべき視点、などの観点を中心にご意見、ご議論を頂きたい。